

交 流

◆連携に関する覚書締結

三月七日、本学社会連携センターと山梨県北杜市は芸術、文化、教育、まちづくり等を通じ地域社会の活性化に寄与することを目的とした連携に関して合意し、北杜市役所にて、本学宮廻正明社会連携センター長と白倉政司市長が、覚書に署名した。

北杜市には、平山郁夫シルクロード美術館や本学の北川原温教授が設計した中村キース・ヘリング美術館が所在するほか、これまでも、教員が講師となり市内の児童向けに絵画教室を開いたり、教員が同市を研究フィールドとするなどの連携関係があった。今後、地域貢献の各種事業、教育及び人材育成等に関し、市と協議を進めていくこととなる。



◆「音響技術史」の記録の歴史」を

三月二十八日より発売

音を記録するということは、古代から人類の夢であった。本書は、この夢を実現した人々の歴史をたどる。

エジソンの蓄音機からCD、そして最新のSACDやデジタル・オーディオ・プレーヤーの誕生まで、様々なエピソードを交えて当時の最先端技術の誕生の過程をまとめている。アナログからデジタルに移行する現場のまっただ中で活躍した著者の生体験は、音響の歴史をたどる上での貴重な資料となるはずである。

音響を学ぶ学生の教材としてだけでなく、一般のオーディオファンにとっても大いに楽しめる内容となっている。



出版会活動

◆DVD「アニメーション専攻 第二期生修了作品集2011」を三月十九日より発売

二〇一一年三月に修了したアニメーション専攻第二期生。修了制作十一作品及び一年次制作十一作品を収録しDVDとして発売。若く未完成ながらも独創性に富んだ十一の視点で、学生たちが二年間を費やして探求した「アニメーション表現との対話」。その成果物として生まれた短編作品群は、耳慣れた「アニメーション」のイメージから軽々と私たちを解放して、より自由で広大な「ANIMATION」表現のステージを予感させる。



◆「ルネサンスのエロティック美術」を

三月二十五日より発売

本書は、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ティツィアーノら、代表的な芸術家たちによるエロティックな表象をめぐって、日本・イタリア・アメリカの八人の研究者による最新の論考を収めた論集である。



受 章 ・ 受 賞

◆高山登教授、林武史准教授が

「第六回円空大賞」円空賞を受賞

四月二十日、美術学部先端芸術表現科の高山登教授及び彫刻科の林武史准教授が、立体造形、絵画、映像等の分野で、めざましい活躍をし、「円空」を彷彿とさせる顕著な業績をおさめている芸術家を顕彰する第六回円空大賞円空賞を受賞した。

受賞にあたり、高山登教授は「主として使い古した鉄道の線路の枕木をもつて作品を作る。この鉄道という文明の利器に長い間圧殺されてきた枕木にあたかも生命の根源を見ているかのように、その枕木を組み合わせて、不思議な風景を現出する。枕木はあたかも人間や動物や草木のように命をもち、圧殺されたその生命の再生を訴えているかのような」と評された。

また、林武史准教授は「石を素材としているが、その石は空に屹立する石ではなく、地にささやかに並べられた石である。その石によって水田や歩く人などを表現する。これらの作品の中には日本人に寄せる愛情とユーモアがあふれているように思われる」と評された。

◆中村政人准教授が「芸術選奨」文部科学大臣新人賞（芸術振興部門）を受賞

三月十一日、美術学部絵画科油画（壁画）の中村政人准教授が、芸術選奨文部科学大臣新人賞（芸術振興部門）を受賞した。

アーティストとしての活動と並行してさまざまな公共的プロジェクトを創設。平成十年より千代田区をベースに若い表現者たちの場を開き、「コマンドZ」（平成十年・秋葉原）や「KANDADA」（平成十七年・神田）の活動を経て、平成二十二年に廃校となっていた区立練成中学校の再利用計画として「アーツ千代田333」を開設。多彩な活動が集まるプラットフォームを形成し、ディレクターとして目覚ましい活躍を見せていることが受賞の理由。

◆藤原信幸准教授が「国際ガラス展・金沢2010」奨励賞を受賞

美術学部工芸科ガラス造形の藤原信幸准教授の作品「小文間の植物」シリーズ2010-01 Plant of Omomura Village(2010-01)が、国際ガラス展・金沢2010において奨励賞を受賞した。

受賞作品については「色も重く、また素材もとても重いガラスのような感じだが、下に敷いてある黒く塗られた板を一枚重ねたものが、今までにない新しいものという印象」と評された。

◆小谷元彦准教授が「第二十五回平櫛田中賞」を受賞

美術学部先端芸術表現科の小谷元彦准教授が、「新しい時代の彫刻の領域を開拓している活動全体」を評価され、第二十五回平櫛田中賞を受賞した。

「小谷元彦展 幽体の知覚」を中心とする活動における、樹脂による立体や映像など多様な表現手段を用いつつ彫刻の概念を超えようとする試みが、高く評価されたもの。

◆村岡貴美男助教が「再興第九十五回院展」日本美術院賞（大観賞）を受賞

美術学部絵画科日本画の村岡貴美男助教の作品「曼珠沙華」が、「構成に強い執着を持ち、形態は写実を主としているが、それらの組み合わせの微妙な重なりやずれが生じるところに、事実にとらわれず自由な発想の色感を散らしていく。するとそこに思いもよらぬ空間の構成が生じ、画面は謎解きの魅力をもたえる」と評され、再興第九十五回院展において日本美術院賞（大観賞）を受賞した。

この度の「東北地方太平洋沖地震」により、被害に遭われた皆様方に対して、心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

◆東北地方太平洋沖地震に係る義援金「芸大震災義援金」

三月二十二日から四月二十二日までの間、本学では、被災者救援、復興支援のために「芸大震災義援金」として義援金の受付をおこなった。

四月二十二日現在で、口座振込および募金箱へのご寄附を合わせ、九十九万一千六八円のご支援があり、日本赤十字社へ「東日本大震災義援金」として送金した。

本学では、充分な被災者支援と一刻も早い復興を願っており、上野校地の「奏楽堂」においては、引き続き募金箱を設置している。

◆平成二十二年度「卒業式」の中止

本学では、今回の地震による深刻な影響を考慮し、式典を実施することの可否について、ぎりぎりまで検討を重ねたが、三月二十五日に実施予定であった「卒業式」を中止した。

地震により被災者の方々が困難な状況にあること、今後の災害発生に予断を許さないこと、電力供給量低下による混乱等の中で式典を実施するにあたり学生・保護者の皆様の安全の確保が困難と考えられることから中止の判断に至った。

「卒業式」の中止に伴い、宮田学長は「学長からのメッセージ」を動画配信し、卒業・修了生へのメッセージを送った。その中で、「歩」という字を揮毫し、社会に向けて一歩一歩踏みしめ足跡を残すことで、卒業・修了生が歴史をつくり、日本復興の力としてほしいと述べた。

◆平成二十二年度「入学式」の取りやめ

卒業式と同様、四月五日に実施予定であった「入学式」を取りやめた。

「入学式」の取りやめに伴い、宮田学長は「学長からのメッセージ」を動画配信し、新入生へのメッセージを送った。その中で、「協」という字を揮毫し、本学人学までに多くの人が支えた力、本学で学んで身につける力、そして、卒業後に得られる大きな文化芸術における力、三つの力が重なり合い大きな力となる。それらを身に付け、世の中に飛び出し、社会に豊かな潤いをもたらす存在になってほしいと述べた。

◆東京藝大教員有志による被災地復興支援・文化財救援作品展

六月一日から七月十日までの間、東日本大震災の被災地の復興支援と文化財の救援をおこなうことを目的とし、東京藝大の教員有志がそれぞれの作品を本学藝大アートプラザに持ち寄り、「東京藝大教員有志による被災地復興支援・文化財救援 作品展」を開催した。

開催期間中、作品は飛ぶように売れ、売上金は公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団へ寄附された。

十月四日から十月十日の間にも、同展の第二回開催が予定されている。

◆学長と語ろう区奏楽堂トーク&コンサート

六月十八日、第九回「学長と語ろう 奏楽堂トーク&コンサート」がゲストに「リストラテアルボルト」のオーナーシェフである片岡護氏を招いて開催され、約七〇〇名のご来場のお客様が約二時間にわたり対談と演奏会を楽しんだ。

第一部は「食としての美」と題し、「リストラテアルボルト」の美しい料理の数々が次々とスクリーンに映しだされるなか、片岡氏のこれまでの経験や「食」についての思いが語られた。

◆高校生のころに、東京藝大工芸科のデザイン部門への進学を志していた、と東京藝大との意外なつながりを打ち明け会場を沸かせる一方、藝大進学をあきらめ料理人の道へ進むことに大変悩んだ際、当時通っていた予備校の先生に「デザインも料理も同じ。料理はお皿の上でデザインできる」と言われ、絵筆を包丁に持ちかえることに決めた、など驚きのエピソードを披露した。



第二部では、対談のお礼として、「イタリアン・音楽・ディナー」本日のメニュー」と題しコンサートが開かれ、ダグラス・ボストック特別招聘教授の指揮により本学音楽学部学生オーケストラがイタリアにある名曲の数々をイタリアンのコース料理になぞらえて演奏。ご来場のお客様の心を遠くイタリアへと誘い、大盛況のうちに幕を閉じた。

次回、第十四「学長と語ろう 奏楽堂トーク&コンサート」は、ゲストに映画監督の山田洋次氏を迎え、十一月十九日（土）に開催予定。

◆藝大フレンズ加入者状況

加入者数 平成二十三年七月三十一日現在
賛助フレンズ 個人二七三名 法人五団体
特別賛助フレンズ 個人二二名

◆今年度上半期に開催された主な展覧会、演奏会記録

《大学美術館》

「香り かぐわしき名宝」展
会期 四月七日～五月二十九日
入場者数 四万七千四百六十六名
芸大コレクション展「春の名品選
会期 四月七日～五月二十九日
入場者数 三万八千七百一〇名

《奏楽堂》

チェンバロオーケストラ
第十七回定期演奏会
開催日 七月三日
入場者数 七〇〇名

リスト生誕二〇〇年記念リスト音楽院・東京藝術大学コラボレーションコンサート
開催日 七月九日
入場者数 六三四名
管打楽器シリーズ ドイツで活躍する名手ロヨナスとミ・フックスを迎えて
開催日 七月十四日
入場者数 七一五名

第23号刊行にあたって

藝大通信リニューアル4号目の本号では、表紙の撮影を初めて屋外でおこない、塚原康子先生の爽やかな笑顔の気持ちのよい写真で飾ることができました。もちろん、中身も号を重ねるたびに充実さを増し、「読む気になる」顔つきになってきていると思います。

とりわけ連載二回目の「研究室探訪」は、私たちが知り得ない各々の研究室の日々の営みを垣間みることができ、私の好きな連載です。また吉田千鶴子先生による連載「上野の杜の波瀾万丈」では、誌面には到底収まり切らない激動の東京藝術大学史が刻まれており引き込まれてしまいます。

「東京藝術大学の資産は人である」の精神をぶらすことなく今後もより充実した内容を目指していきたいと思います。

藝大通信編集長
松下 計

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式 Web サイト (<http://www.geidai.ac.jp/>) をご覧ください。

●展覧会についてのお問い合わせ先

東京藝術大学大学美術館
Tel. 050-5525-2200
NTT ハローダイヤル
Tel. 03-5777-8600

●演奏会についてのお問い合わせ先

東京藝術大学演奏芸術センター
Tel. 050-5525-2300

●演奏会チケットの取り扱い

藝大アートプラザ
Tel. 050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel. 03-5355-1280
チケットぴあ
Tel. 0570-02-9999
(一部携帯電話・PHS・IP 電話はご利用いただくことができません。)
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5685-0650

●藝大アートプラザのご案内

Tel. 050-5525-2102